

# 美山だより 2012・あき

皆様、お元気ですか？ このたび美山で2つ目のおひさま発電所が「田歌舎」にでき、10月にはうれしい気持ちで点灯式に出席しました。

今日は前回にお話したモリアオガエルの池についてお話します。ここには近くの排水路から来たアカハラが住みつき、トンボが産卵し、サカマキガイ、マツモムシ、イトミミズもいます。夏にはトノサマガエルやモリアオガエルのオタマジャクシの幼稚園みたいになります。水生植物もオオバス、スイレン、ショウブ、ヒシ、クワイが育ち、今年の春にはマコモを植えました。

マコモは沼などに自生しているイネ科植物ですが、食用の栽培種は茎の中に黒穂菌がつき、肥大化しマコモタケになります。この池にはたくさんいる生き物の糞や、池周辺の落葉樹の落ち葉が池底に溜って水生植物の肥料になります。マコモは植えっぱなしの放任栽培で、秋には2m以上に育ちました。そして10月末にマコモタケを収穫。(写真①)

マイタケ、食用菊と一緒に炒めるとこの上もなく美味で どんな料理にでも使えそうです。池の養分循環の仕組みにまかせて栽培できたので、うれしくなりました。

秋が深まると池の水生植物は枯れていきます。池の底に溜った有機物は半分泥のようになっています。それを雪が降る前に泥上げスコップですくいあげて、池のそばのヤマボウシの周辺に置きます。すると春にはそこに植えてあるイカリソウ、カタクリなどが開花し、初夏にはヤマボウシの花が美しく咲き、秋には甘い実がなります。これも池の養分循環の例です。



写真①…マコモタケとショウガ

さてこの秋、岩手県に数日間のひとり旅をしました。まずは花巻市の「自然農園ウレシパモシリ」を12年振り再訪問しました。この農園のモットーは、「循環と共生に満ちた空間での自然も人も搾取しない暮らし」です。それを反映した農のあり方、暮らし方に、多くの人々が引き寄せられ、この農園には研修生が常に数人滞在されています。

翌日はさらに北上し、葛巻市の「風と森のがっこう」に出かけました。ここは標高700mの山間部にある廃校に新たな手が加わった施設で、バイオガスプラント、コンポストトイレ(写真②)、空き缶風呂、カフェ、森のキッチンなどが手作りされています。エコロジカルで美しいデザインを見学、体験できるステキなところです。ここのワークショップ会場ではドラム缶のロケットストーブが焚かれ(写真③)とても温かでした。夜は廃屋となった旧教員住宅を改修した自然エネルギー活用滞在施設「エコキャビン」に宿泊しました。



写真②



写真③

その後再び花巻市に戻って大沢温泉の自炊部に宿泊しました。夕食は自炊しましたが、コンロは昔ながらのコイン式で10円玉を入れるとガスが出てきました。朝早く清流に面した露天風呂につかり、美しい秋色にそまった山々を眺めていました。昔ながらの湯治場の風情を残したこの宿は1泊3000円。こんな素朴な宿が残っているなんてうれしい限りです。岩手県への旅は私にとって久しぶりの充電と休養の旅となりました。たまにはアースガーデンを離れるのも良いものです！

まもなく寒い季節、皆様ご自愛ください。

2012年11月11日 アースガーデン 植月千砂

追伸1

8月にお届けした美山だよりでモリアオガエルについて「目のふちが金色で」と書きましたが、モリアオガエルの黒目の回りはふつう金色っぽい赤茶色。明るい金色はシュレーゲルアオガエルの特徴だそうです。

追伸2

隣接地の酒造工場とアクセス道路開発計画について、皆様にはご心配をおかけしています。ようやくアースガーデンの環境保全にむけた具体的な話合いが先日もたれました。